

保育おおか

平成16年10月1日 第350号

大阪府社会福祉協議会・保育部会

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

育児相談員フォローアップ研修が9月13日(月)、葉業年金会館で開かれた。今回は、「次世代育成支援と保育園のあり方」をテーマに、大阪府立大学名誉教授の野澤正子先生を講師に迎え、次世代育成支援をどう理解するか、保育士はどうあるべきか、などについて講演いただいた。

「育児相談員フォローアップ研修」

子育て・親育の場づくり

次世代育成支援と保育園のあり方

「次世代育成支援と保育園のあり方」

野澤 正子氏

(大阪府立大学 名誉教授)



講師の野澤正子氏

養育の第一責任者は保護者であり、子どもにとって一番大切な環境は、家庭環境である。家庭生活を充実させようとすると、勤務時間などの問題で、仕事と家庭の両立が難しいため、事業主の協力が必要になる。

小学校入学前まで、両親は午後7時頃までに帰宅して、家族が一緒に夕食を食べる環境を職場は作らねばならない。近年家庭の団らんがなくなり、個室で一人食

事をしていく子どもが増え、驚くばかりである。子どもが思春期に家庭内で暴力をはたらくようになって、家族は親密な共同体として、最後まで見捨てはしない。また、子どもは家族のよそゆきと普段着の両方を見ながら、いろんな事を学んでいる。



活発な意見交換をする受講者

今、家庭の弱体化が問題になっていて、支援すればするほど、親の子育て力を低下させているのではないかと問われている。そのような支援は適当ではなく、むしろ親子の絆を深め、育児力を高める施策や、親自身の主体的取り組みを促す施策を充実させることが必要とされている。こうした支援する側の保育士の専門性とは、知識や技術に支えられた、鋭い勘である。それは日々の仕事を通して蓄

積されるものである。保育士に求められる専門性の能力として数ある中で、子どもと保護者とコミュニケーションできる能力が要求される。保育園のあり方として、今後、子育て、親育の場としての支援が求められる。保育士はまた、子どもの人権を尊重した働きかけが必要とされている。まず、子どもを見て感じる、そして発している信号を聴き説明する。どんな小さな子どもにもこの「説明」が大事である。例えば、母親は知らぬ間に子どもから離れるのではなく、泣かれてもきちんと説明してから離れるようにしなければならない。

虐待を受けている子どもは、自己を作れず信頼できない子どもになるが、それは信頼できる内在的親がないためである。親が叩いたり、けつたりすると、子どもも同じような行動を取る。そこで、仮に保育士を叩いたならば「ここを叩いて」と違う箇所を示したり、「好きよ」と抱きしめたりしている、だんだんとその子どもは変化していく。こういう問題行動の子どもは、このメッセージを読み取り、保育士との信頼関係を少しずつ作るように努力すべきだと思ふ。そして、子ども一人一人を大切にすることが大事だと、改めて感じるとともに、子育ては母親だけがするものではなく、父親はもちろん、保育園、地域社会全体で子育てを行い、育児の喜びや楽しみを味わえるような支援をしていかなければならない。

(八田庄保育園 J・M)

今年台風の当たり年のようだ。先日、串本から大島を旅し、明治23年9月1日夜、トルコ皇帝の特派使節として来日した650余人の将兵を乗せた軍艦エルトゥール号が帰路、台風のため遭難し、580余人が殉職した岩礁を檜野崎灯台から眺めました。

一命をとりとめた69人は荒れ狂う怒濤の中、必死で島に這い上がり、灯台に助けを求めた。嵐の深夜、島民は着物や布団を持ち寄り、蓄えていた芋や飼っていた鶏などの食料を提供し、献身的な救難活動を繰り広げた。遺体の捜索もなされ、檜野崎の丘に埋葬され、慰霊碑を建立し、追悼祭が行われた。追悼祭は現在も島民により続けられている。

この遭難事件と島民の心のこもった救難活動は、百年以上も経った現在もトルコの教科書に載せられ、語り継がれている。明治の先人のすばらしい行動を知り、日本人の誇りとして受け継いでいきたいものと思っています。



今年台風の当たり年のようだ。先日、串本から大島を旅し、明治23年9月1日夜、トルコ皇帝の特派使節として来日した650余人の将兵を乗せた軍艦エルトゥール号が帰路、台風のため遭難し、580余人が殉職した岩礁を檜野崎灯台から眺めました。

より良いサービスをめざし

16年度 評価調査者指導者研修会

全国社会福祉協議会が主催の平成16年度評価調査者指導者研修会が、8月30日～9月2日まで全社協灘尾ホールにおいて開催された。全国から84人が受講し、各種別9グループに分かれて研修に入った。部会からは白鳩会の栗本広美理事長にご参加いただいた。

定である。

第一日目は評価指導者の役割を倫理等基礎的な研修で各種別共通に行われた。

2日目の午前には今回のガイドラインの理解、児童福祉施設及び障害者・児に関する福祉サービス第三者

評価基準のあり方の検討状況が説明された。午後は分野ごとにグループが生まれ、第三者評価基準における判

断のポイントの演習をNP
O法人や全国保育士養成協議会の方々の助言をもらいながら行なった。第三者評価事業の受審は、行政監査を受けることの意味と異なり、福祉サービスの質の向上を促すためのシステムの一つであり、他の苦情解決制度等福祉サービスの質を高める他の仕組みと組み合わせることによって、一層福祉サービスの質の向上が図られる。

第三者評価を受けることの効果としては組織の対内的な効果として、①問題点の改善への効果的かつ具体

的な目標の設定ができる。
②職員の自覚と改善意識の醸成が促進される。また、対外的な効果としては利用者などからの信頼獲得と向上が図られ、同種の事業者同士の質の高まりとよい意味での競争意識が促進される。また、第三者評価の機能ではないものとして施設の評価などは行いが、コンサルタント機能はない。よく機能的に混同されやすいのは行政監査であるが、第三者評価は基本的に事業者のサービス向上支援をするシステムである。

守するための監査とは異なり、より良質で高い水準の福祉サービスをめざすためのものである。受審施設がこのシステムを正しく理解するためにも、評価調査者が担う役割は大変重く、倫理観に裏打ちされた専門性が求められる。

今回の評価者を育成するための指導者研修会は第一回目ということもあり、各々の種別の受講者は熱心に最終日までのカリキュラムを受講した。

福祉サービスの第三者評価事業については厚生労働省から平成13年5月15日付社援発第880号通知を皮切りに、14年度、15年度と各福祉施設種別の要領に応じて評価基準等が示されてきた。

更なる普及、定着を図るため既に平成15年度、全社協に「第三者評価基準及び評価機関の認証のあり方に関する研究会」が設置され、福祉サービス第三者評価事業の推進体制、福祉サービス第三者評価基準のガイドライン等について研究が行われている。

平成16年5月7日、改めて厚生労働省から指針が示された。今回示されたガイドラインは、福祉サービス共通の基準であり、児童福

保育園向けに5冊の手順書

リスクマネジメント実践セミナー

講師の高田一平氏

社会福祉施設経営者部会が昨年度から力を入れて取り組んでいる仕組み作りのためのリスクマネジメント実践セミナーについて、これまで介護系が多かったこの種のセミナーの中で、今秋保育園向けメニューを保育部会と共催で提供することを開始した。

講師は、これまでと同じ高田一平氏。高田氏は昨年

度末にインターリスク総研を退職され、今春から個人事務所を立ち上げる傍ら立教大学大学院講師として活躍されている。

セミナーの内容は、これまで同様に厚生労働省「福祉サービスにおけるリスクマネジメントに関する取り組み指針」があげられる20の取り組み項目（経営者のリーダーシップから事故への備

えまで）のうち、キーとなる4つの仕事（①サービス標準化、②個別化、③ヒヤリハットの収集分析、④事故対応）について、その具体的な取り組み方法を解説しながら、主語や、留意点が確実に入った、成果物（4つの仕事に関する手順書）を作り上げるもの。特に今回は、保育園における代表的な仕事に絞って、5冊の手順書を作り、現場での適用に役立てる。さらにこの手順書を作る作業を通して、その他の仕事に対する手順書の作り方の要領も

理解でき、拡大していくことによって、RMシステム（仕組み）を完成させようというものの。保育園向けということから子どもの入園時、受入、見守りなどの項目が加えられ、8月からの募集に30か園もの応募があり、9月22日には第1回目として総論はもちろんのこ

と、子どもたちへの食事提供手順について作業を開始したところである。

このセミナーは月1回のペースで来年1月まで続くが、初めての試みとして参加園の成果に期待したい。



老朽改築を終えて

寝屋川市
寝屋川めぐみ保育園



寝屋川めぐみ保育園は、昭和50年の開園以来、30年が経過し、施設整備の老朽化が進行し、特に平成7年の阪神淡路大震災の影響を受けて壁のクラックや構造体のねじれなどにより建物自体が危険な状況にあると診断されました。

このような状況に鑑み、当法人としては、設立30周年事業と位置付け、改築事業を実施しました。

計画にあたって、寝屋川市や地元からの要望もあり、定員をそれまでの60人から30人増の90人とし、待機児童解消を図ることとした。



地域子育て支援センター

に加えて一時保育を実施し地域の子育て支援の拠点施設とすることが、整備の条件となる中で、敷地の関係から現地での建替えが難しく、近くで適地を確保し移転改築することにしました。

この敷地の確保が困難を極め、地主様のご協力により、ようやく平成15年3月に確保のめどが立ち、大阪府や寝屋川市当局の温かい

ご配慮により、改築事業を進めることができました。新園舎は設計者によるシンメトリのデザインで、正面から見ると子どもたちが健やかに育ち、未来に向けて飛翔するイメージです。デザインだけでなく、建物も安全で使いやすく機能美を備えています。一番の自慢は全保育室が桜の床材と床暖房が設置され、一年を通じて子どもたちが元気に活動できることです。このすばらしい建物に負けない保育を目指し、職員一同これまで以上に精進してまいる所存です。

■先日、ある研修会で「ゲーム脳の恐怖」という本の著者で日本大学教授の森昭雄先生と対談する機会がありました。

先生は、脳波を簡単に測定できる装置を開発して、

もっとも人間的な働きをつかさどっている前頭前野の活動量を知ること、テレビゲームをやりまする若者たちの精神的な異常や行動のおかしさの原因を探っている学者です。

そのデータによりま

と、ゲームばかりして、先生のいう「ゲーム脳」になつてしまった若者の前頭前野の活動量は、ほとんど痴呆老人と同じぐらいのレベルまで、その活動が低下しているということです。

■それでは、その前頭前野はどんな働きをしている部分なのでしょう。

前頭前野は、大脳の前方、

外から見ればひたいの部分にあり、他の動物に比べて人間で最も大きく、最も発達している部分なのです。

ですから、人間は他の動物と比較すると「おでこ」がでているのです。

また、同じ人間でも、ネアンデルタール人などの古

落語医者の保育うだうだ話

テレビゲームはやめて

い人類よりも、ホモサピエンスと言われるわれわれの方が発達していることは、その頭蓋骨を見れば明らか

な事実なのです。

そうなんです。この部分こそが「人間らしく生きていく」という働きをしているのです。

具体的には、意欲・感性・

具

していくのです。

これが長時間になりますと、必然的に前頭前野の機能低下が起こり、そうなれば、当然のこととして「人間らしく生きる」能力、あるいは脳全体の働きをコントロールする能力の低下を来してしまうのです。

他の部位の活動をコントロールしているのです。

■テレビゲームをしますと、ごく最初のうちは前頭前野も働くのですが、しばらくすると、強い刺激に反射的に指を動かすだけになり、いわば前頭前野をショートカットして、前頭前野を働かすことなくゲームに没頭

■最近話題になっている小学生による感性的なカケラもない凶悪な犯罪、あるいは学級崩壊に見られる無気力と集中困難、また、今では当たり前のように平気で化装し、ケータイで大声で通話する羞恥心の欠如、以前に比べて笑顔や意欲に乏し

く、おまけに「キレ」やすい子どもなど……。不気味で不愉快で非常識でお行儀の悪い行動や態度、一言で言えば「人間としての質の低下した」子どもたちが目につくようになり、しかも確実に増加し続けているのはどうしてだろうかと思ふ不思議な印象を持っていたのですが、実は、これらの実態の原因のひとつが、テレビゲームのやりすぎによる前頭前野の機能低下だと判明したのです。

そうだったのかと、納得すると同時に、このままでは一体どんな恐ろしい、どんな殺伐とした時代が来るのかと、わたしは不安と恐怖に襲われ、これからはテレビゲームの害について、事あるごとに訴えていくと決心したのでした。

(英)

保育部会 常任委員会 報告

平成16年9月7日 午後2時～

- 民間保育所運営等の補助金確保についての要望について
- 大阪府民間社会福祉施設従事職員給与改善費補助金について
- 保育海外研修について
- 第三者評価事業の予約について
- その他

ブロックだより

虐待家庭への支援 ネットワーク 活かそう

堺ブロック研修会

堺ブロックでは、「虐待家庭への支援」と題して弁

護士の峯本耕治氏を講師に迎え研修が行われた。

虐待の通告義務ができてから早期発見や相談が増え、児童相談所での相談処理件数が急増している。今年4月に虐待防止法が改正され、虐待家庭への支援の重要性が明記された。

実際に虐待家庭の支援を行っていく場合に、まず考へる有効的な手段が保育園の利用である。保育園に毎日通ってくれば経過観察



講師の峯本耕治弁護士

も行いやすく、保護者の育児ストレスも軽減されるからである。ただ、注意しなければいけないのは、担任保育士や保育園が問題を抱え込まないことが重要で、ネットワークを活かして対応してほしいとのこと。今回

の改正で虐待の疑いでも通告できるようになったので、通告前相談などを利用し、子どもたちに適切な対応ができるようになればと思う。今後、ますます保育園に期待されることは大きい。(保育園平和の園 N・S)

優勝めざし GO! GO! 施設従事者体育祭応援合戦 北大阪ブロック

社会福祉施設に従事している我々の退職金や福利厚生などについてお世話いただいたおかげで、「大阪民間社会福祉事業従事者共済会」である。その理事長が私たち保育部会長の高岡國士さんだということはお前に紹介したが、今回は実務のスタッフを紹介したい。運営実務をこなすのが永島剛常務、中野淳一事務局長、志磨規之総務課



長、塚口研一主事、一方位慶一主事、問屋実主事のみなさんだ。少数だが精鋭で、てきばきと業務処理をされている。毎年枚方の松下体育館で行われる体育祭の企画や準備、またリフレッシュ事業として格安でいける海外旅行や国内日帰り旅行など、福利厚生のため日夜奮闘いただいている。退職金制度などの大きな課題はあるが、これからもご活躍いただきたい。

保育園をたずねて

320

豊中市

あけぼのドロップス

あけぼのドロップスは、新御堂筋に走る、北大阪急行線・桃山台駅の北東に位置し、大阪府・府営住宅の敷地を借り受け、平成14年にオープンしました。対象児童年齢は、5か月から3歳児までの45人定員です。

園長先生には、保育園の名称「ドロップス」の由来

木のおもちゃを大切にしたい園内で、子どもたちは、我が家で暮らしているように、家庭的な雰囲気の中で伸び伸びと保育を受けていました。



イスを並べて「いただきます！」

「カナダにある「ドロップインセンター」から命名し、「たまり場」をイメージしています。地域の人や子育て中の方が気軽に集える施設を目指しています」と語られ、子どもたちにも大人にも居心地の良い場であり、なめると甘ずっぱくてなぜか幸せを感じるあのドロップのようにスイートな場で、子どもたちの瞳もきらきらと輝いていました。

昭和50年に大阪の社会福祉施設が業種を超えて、健康な身体づくりをしつつ、会員相互の親睦や交流を図ること等を目的にスタートした松下体育館での施設従事者体育祭が今年30回目を迎えることになりました。記念すべき年に北大阪ブロックが担当することになり、重責を感じながらも濱田会長のご指示の下、枚方市私立保育連絡協議会が担当することになりました。枚方市内34か園が協力し、保育部会の優勝をめざし責任を果たしたく、ただいま

枚方市私立保育連絡協議会の副会長、保育士研修委員長、調査研究委員長、管理職研修委員長を中心に実行委員会を立ち上げ、NPオリズム体操研究会の先生に相談しつつ練習を開始しています。70人の保育士が一同に松下体育館で音楽に合わせてリズムカルに動き、かつインパクトのあるものと言ふことで、忍者の動きと精神を取り入れ、和風の音楽に合わせて「子どもからお年寄りまで楽しめる体操」を始めました。34か園の保育士の交流を

深め、士気を高めるためにも工夫を凝らした名札を付けチームワーク作りをしています。第一回目は、長尾保育園の広いホールに集合し、今回の応援合戦の意義とねらいを共通認識にし、身体を動かしました。11月14日の優勝をめざしてGO!GO! (常称寺保育園 K・I)

発行所
大阪府社会福祉協議会
保育部会
TEL 6762-9001
発行人 國士 勝
編集人 高岡 水